

(平成19年5月分)

部 門	市 況 の 概 要
野 菜	<p>5月期の野菜の市況については、暖冬の影響を受けた18年度産品目の出荷終期を向かえたことと、後続の新年産地(19年度産)は春先の不安定な気象条件が入荷の変動に大きく左右することとなった。品目によっては、予想外の端境期を迎える状況となり、全般的に葉物類が入荷量が減少傾向となり、果菜類が順調な入荷状況となった。全体を通して、入荷量は前年同期を3%下回る結果となった。</p> <p>価格は、不安定な入荷状況ながら、年明けからの一貫した野菜の安値基調が続く結果となり、一部の品目を除きほとんどの品目で鈍い市況状況となった。結果的に前年同期を4%下回った。</p> <p>品目別には、レタスが入荷減の単価高で推移し、はくさい、はれいしょ、たまねぎが入荷減の単価安で推移した。さらに、キャベツは入荷減ながら単価は前年並みとなり、長大根、ピーマンは入荷量が前年並みで単価安となった。西洋ニンジン、きゅうり、なす、とまとは入荷増の単価安となった。また、ほうれんそうは入荷増ながら価格は前年並みであった。</p> <p>根菜類は、入荷が4%増加し、価格は16%安となった。</p> <p>葉菜類は、入荷が15%減少し、価格は8%高となった。</p> <p>果菜類は、入荷が13%増加し、価格は14%安となった。</p> <p>土物類は、入荷が8%減少し、価格は14%安となった。</p>
果 実	<p>5月期の果実の市況については、18年度産のリンゴ、甘夏類が出荷終期を迎え、新年産地(19年度産)が本格入荷となってきた。重量品目のスイカは大玉傾向で順調な入荷となったが、全体を通して、柑橘、リンゴの入荷量の減少が今月も影響することとなり、前年同期を6%下回る結果となった。</p> <p>価格は、入荷減によって前年同期を10%上回った。</p> <p>品目別には、甘夏、ふじが入荷減の単価高で推移し、いちご、アンデスメロンが入荷増の単価安で推移した。さらに、スイカは入荷増ながら単価は前年並みとなり、アールスは入荷減の単価は前年並みとなった。また、アムスメロンは入荷量、単価ともに前年を下回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が34%減少し、価格は43%高となった。</p> <p>りんごは、入荷が14%減少し、価格は10%高となった。</p> <p>いちごは、入荷が9%増加し、価格は5%安となった。</p> <p>メロンは、入荷が14%増加し、価格は9%安となった。</p> <p>スイカは、入荷が11%増加し、価格は前年並みとなった。</p>

主要品目（野菜）	市 況 の 概 況
<p>【根菜類】 長 大 根</p> <p>洋 人 参</p>	<p>長崎を主力に千葉，福井，石川からの入荷。各産地ともに生育は良好で潤沢な入荷状況となり，結果的に入荷量は，前年並みとなった。 価格は，全般的な野菜の安値基調から前年同期を 1 4 % 下回った。</p> <p>長崎，徳島を中心とする入荷。各産地ともに生育は良好で，連休後の一時的な天候不順の影響はあったものの順調な入荷となった。結果として入荷量は前年同期を 1 1 % 上回った。 価格は，入荷増により前年同期を 3 1 % 下回った。</p>
<p>【葉菜類】 はくさい</p>	<p>茨城を中心に長野，大分からの入荷。各産地ともに春の不安定な天候が作柄に影響し，不安定な入荷状況となった。結果として入荷量は前年同期を 2 0 % 下回った。 価格は，入荷量が減少したものの，長期化している加工業務需要・一般消費の低迷から，前年同期を 3 7 % 下回った。</p>
<p>キャベツ</p>	<p>愛知，京都，兵庫を中心とする入荷。春系産地の前進出荷と後続産地の出荷遅れから端境期を迎えたこととなり，入荷量は不安定となった。結果として前年同期を 1 7 % 下回った。 価格は，入荷量は少なかったものの，品質の悪い産地があったことから，結果として，前年並みとなった。</p>
<p>ほうれんそう</p>	<p>京都，岐阜を主力に滋賀，茨城からの入荷。各産地ともに作柄も良く順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を 4 % 上回った。 価格は，入荷増ながら，遠地産地の一時的な天候不順による不安定な入荷状況により，結果的に前年並みとなった。</p>
<p>レ タ ス</p>	<p>長野，兵庫を中心とする入荷。兵庫産は，前進出荷から中旬以降に入荷量が激減し，長野産は，低温と旱魃の影響から不安定な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を 2 1 % 下回った。 価格は，入荷量の減少の中，加工業務，一般消費ともに引き合いが強く，高値での販売環境となった。結果的に前年同期を 3 8 % 上回った。</p>

主要品目（野菜）	市 況 の 概 況
<p>【果菜類】</p> <p>きゅうり</p> <p>な す</p> <p>ト マ ト</p> <p>ピーマン</p>	<p>宮崎，高知を中心に滋賀，福岡からの入荷。好天に恵まれたことから順調な入荷となり，結果として，入荷量は前年同期を１２％上回った。 価格は，入荷増と高値であった前年同期を１５％下回った。</p> <p>高知，岡山を中心とする入荷。各産地とも作柄もよく，前進出荷となり，春もの産地を中心に順調な入荷となった。結果として，入荷量は前年同期を１４％上回った。 価格は，入荷増によって，前年同期を１５％下回った。</p> <p>熊本，福岡，三重を中心とする入荷。少し遅れていた九州産地が順調に入荷し，近郷産地も順調に入荷したことから，結果として，入荷量は前年同期を１０％上回った。 価格は，入荷増によって，前年同期を１３％下回った。</p> <p>宮崎，高知，茨城を中心とする入荷。促成産地の切上がりが早く入荷量は減少したが，後続の茨城産が順調な入荷となり，結果として入荷量は前年並みとなった。 価格は，前年並みの入荷ながら，高値推移であった前年同期を９％下回った。</p>
<p>【土物類】</p> <p>ばれいしょ （メーク含む）</p> <p>たまねぎ</p>	<p>長崎，鹿児島を中心とする入荷。各産地ともに作柄的には問題はなかったが，前年を下回る入荷となり，結果的に入荷量は前年同期を６％下回った。 価格は，入荷減ながら，全体としては前年同期を１２％下回った。</p> <p>長崎，佐賀，兵庫を中心とする入荷。九州産の新物は，大玉傾向と前進出荷から今月に入って入荷量が減少してきた。結果として，入荷量は前年同期を１０％下回った。 価格は，入荷減ながら，販売環境が厳しく前年同期を３８％下回った。</p>

主要品目（果実）	市 況 の 概 況
甘夏柑	<p>福岡，広島，愛媛からの入荷。柑橘類全般の不作により入荷量が減少し，結果として前年同期を 23 % 下回った。</p> <p>価格は，入荷減と良好な食味であったことから単価高で推移し，結果として前年同期を 28 % 上回った。</p>
ふ じ （サン含む）	<p>青森のみの入荷。ヤケ果による品質劣化の危険性が懸念されることから，前月までの前進出荷となり，今月に入って入荷量は減少した。結果として入荷量は，前年同期を 19 % 下回った。</p> <p>価格は，入荷減と前年同期が単価安であったことから，前年同期を 9 % 上回った。</p>
い ち ご	<p>熊本，福岡，佐賀，大分を中心とする入荷。各産地ともに出荷の終盤を迎えている中において順調な入荷となった。結果として入荷量は，前年同期を 9 % 上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって前年同期を 5 % 下回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡，宮崎，高知，愛知を中心とする入荷。作付面積の減少から高知，愛知，宮崎産が減少したため，結果として入荷量は前年同期を 17 % 下回った。</p> <p>価格は，入荷減に加え，業務需要に支えられたものの前年並みとなった。</p>
アンデスメロン	<p>熊本，茨城からの入荷。各産地ともに順調な入荷となり，結果として前年同期を 45 % 上回った。</p> <p>価格は，入荷増によって，前年同期を 5 % 下回った。</p>
アムスメロン	<p>熊本からの入荷。作付面積の減少と前進出荷となったことから，今月に入って入荷量は減少し，前年同期を 23 % 下回った。</p> <p>価格は，入荷減ながら下位等級の入荷が中心であり，前年同期を 10 % 下回った。</p>
すいか	<p>熊本，長崎を中心とする入荷。熊本産の生育がよく前進出荷となり，また，下旬より長崎，愛知が入荷したことから，入荷量は，前年同期を 7 % 上回った。</p> <p>価格は，入荷増にあつて品質もよく大玉傾向で，結果的に前年並みとなった。</p>